

令和元年度大阪大学卒業式・大学院学位記授与式 総長式辞

本日、人生の新たな一步を踏み出さんとされている学部卒業生の皆さん、大学院修士課程・博士課程修了生の皆さん、大阪大学を代表して心からお祝い申し上げます。

この晴れの日を迎えるまでの、皆さんの日々の研鑽とたゆまぬ努力を深く讃えます。

また、この日まで長きにわたり学生の皆さんの勉学と研究を支えてこられました、ご家族、保護者の方々には、深甚なる敬意を表するとともに衷心よりお慶び申し上げます。

卒業式・大学院学位記授与式は、皆さんにとって、学生生活の、また、人生の節目として大きな意義を持つ行事です。本来であれば、本日は大学生活で苦楽を共にした仲間や後輩たち、皆さんの成長を支えてくれた恩師や先輩たちと共に過ごした日々を懐かしみ、語り合い、讃え合い、学生生活の最後を胸に刻む、唯一無二の時間を過ごされたことでしょうか。ご家族、保護者の方々にとっても、本日の式典に参加されることを心待ちにされていたことと思います。皆様方の無念は想像に難くありません。

また、私をはじめとする本学の教職員も、皆さんが一堂に会する中で盛大にお祝いし、饒の言葉を贈りたいと願ってまいりました。

しかし、皆さんは、あと一週間もすれば、それぞれの新しい道に進んでいけます。そのことを考えますと、私は、皆さんの安全を最優先とし、新生活の最初の第一歩を元気に踏み出していただきたい一心から、大学として今できる最善の方策として、このような形で卒業式・大学院学位記授与式を開催する決断をいたしました。

今、世界が「目に見えないモノ」の計り知れない恐怖に翻弄され、社会は混乱状態に陥っています。科学者や専門家はそれぞれの見地から、あらゆる手段を講じて、この混乱を収束させようと、日々努力をしています。しかし、それぞれの専門家が、それぞれの範囲で独自にこの問題に取り組んでも、問題全体の解決には程遠いでしょう。

これだけ社会課題が複雑化してくると、その原因を解明し、それに対処し、さらには心理的な面も含めて正常な状態に戻すためには、「さまざまな専門的知識を総動員すること」が求められることは、皆さんも容易に想像できると思います。

そもそも、サイエンス (science) の語源は、「出来事や事柄の根拠を知ること」を意味するラテン語の「scientia: スキエンティア」に求めることができます。

このスキエンティアと同系列の単語に「conscientia: コンスキエンティア」があり、これは「良心、善悪の判断をともなった正しい考え」という意味に加えて、「知を共有すること」という意味もあります。

真のサイエンスは、スキエンティアをコンスキエンティアの域にまで深めることによって究めることができる、と私は考えます。

つまり、ただ専門的な知識を深く習得するだけではなく、その知識を根拠に基づい

て正しく理解し、完全に自分のものにしたうえで社会に伝え、共有することによって、はじめて問題解決に寄与することができる、ということです。

大阪大学で高度な専門知識と幅広い教養を身につけた皆さんには、真のサイエンスを追求し、目に見えない恐怖に怯えている社会に対して、いま「わかっていること」と、まだ「わかっていないこと」を厳格に捉えて社会に伝える。そして、社会が正しい考え、コンスキエンティアを導けるように寄り添っていく。こうした重要な役割があることを自覚してほしいと願っています。

その行動によって、多くの人々が安心し、社会が不可逆的な状況に突き進む前に、正常な方向へと舵を切ることができるかと確信しています。

これまでも病原菌や災害、戦争により人類は大きな打撃を受けました。それでも何とか復活し、そして進歩してきました。そのプロセスには、人類の地道な努力が必ずあります。

このプロセスは、人生においても同じです。大きな困難に陥ったときも、与えられる境遇が自分の思い通りにならないときも、地道な努力と考え方次第で、そのことが自分自身の礎になったと思える時が必ず到来すると信じています。

そのことに関して、私が大切にしている、「最善観」という言葉を皆さんに贈ります。「全ての出来事は必然かつ最善である」という意味です。

この言葉は、哲学者であり、教育者であった森 信三先生のお言葉で、戦前の大阪の天王寺師範学校での講義録に残っています。森先生は、「現在の自分にとって、一見、いかにも為にならない、悪い事柄が起こっても、それは、必ずや天が自分にとって、それを絶対に必要と考えて、与えてくれた。すべての現象は、自分にとって最善のことが起きていると信じることである。」とおっしゃっています。

私の人生の中で、大きな試練が訪れた時、いつもこの言葉が心の支えとなり、私を前へと進めてくれました。皆さんも深刻な状況に遭遇したとき、自分の求めていた方向からずれていると認識したときには、「最善観」を思い出してみてください。

その状況は必然である、つまり、目の前の困難を、「不幸なこと」と考えずに、自分の人生において必要なこととして受け入れる。その不幸だと考えていたことが、実はありがたい幸せなことであった、と思える日が必ず訪れるはずですよ。

こうした「最善観」の考えを持つことができれば、堂々とその試練に立ち向かう勇気が湧いてくるでしょう。そうすれば、あとは深呼吸をして、ちょっと休息をして、「さて、ではいきましょうか」とゆっくりと立ち上がり、大きく一つ伸びをして、そしてまた、歩き出せばよいのです。

大阪大学で強靱な精神を学んだ皆さんは、簡単には折れません。大丈夫です。自信をもって自分の歩くべき道を切り拓いていただきたいと思います。

そして、10年後、20年後に、「いろいろあったけれど、これが私の人生だ」と笑顔

で振り返られるように。あなたは、あなたのことをずっと好きでいられるように。
私はそのことを心から願っています。

最後になりましたが、本日に至るまでに、家族、友人、そして研究仲間、皆さんを陰で支えてくださった大勢の方がいます。改めてその方々への感謝の念を思い起こしてください。そして、青春を過ごした大阪大学のキャンパスと懐かしい思い出を大切な財産として、大きく、大きく羽ばたいてください。

皆さん一人ひとりの人生が、健康と幸運に恵まれ、笑顔で溢れることを祈りつつ、私の式辞といたします。

本日は、誠におめでとうございます。

2020（令和2）年3月25日

大阪大学総長
西尾 章治郎